



札

山代國福島市  
増根田  
加々藤實六郎殿



山代國福島市  
大字 加々藤 百五十五番地  
山川健次郎

書一啓益つて後学は  
其の後若恥  
中々度ハ所々  
落合也。到底惜作  
外モモモ  
想像年々中根明也  
現如の境運必し  
鳥山之去り結ぶ  
之上は人々  
一其成る方々  
ヤッ然今正  
之  
道  
任  
敬  
大  
月  
健  
加  
加  
三  
三  
三





素一啓益の法を以て

一を以て其の後若し

申すに或は其の

落分也。到底物作

一外を以て其の

想像の事。中想の

現時の境。是れを以て

鳥山を去りて其の

之を以て其の

一其戒る方。其の

や。其の法。其の

一其の法。其の

道。其の法。其の

行。其の法。其の



行高しと御し信じ

河平二年 敬具

大正四年

月了 健次郎

加々藤殿

此後

二七物せ来るナリ夜流  
有るは地及天ナリ一信  
三三多々多々一ナリ  
甲子年

山代國福島市

曾根田

加々藤實六郎殿



札

東京府北豊島郡長崎村  
大字池袋百番地  
山川健次郎